

令和8年産水稻の作況調査結果と当面の技術対策

米麦畜産課
(農産振興室)

生育ステージ	早期：黄熟期～成熟期（コシヒカリ） 早植：穂ばらみ期～乳熟期 普通期：幼穂形成期～穂ばらみ期
生育概況	早期：「コシヒカリ」の出穂期は平年並となった。出穂後の高温により白未熟粒や胴割粒の発生が懸念される。 早植：出穂期は平年並からやや遅れた地域が多かった。葉色の低下や下葉の黄化、赤枯れ症状が一部で見られ、藻類の発生も目立つ。 普通期：出穂期は平年並からやや遅れる見込み。藻類やガス湧き、赤枯れ症状の発生が散見されるほか、一部では茎数確保の遅れや雑草の発生が目立つ。

1 気象経過（前橋地方気象台の気象データ、8月は第3半旬までのデータ、参考資料参照）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
気温(平年差)	+2.3℃	+1.7℃	+0.0℃	+1.6℃	-0.1℃	—	—
降水量(平年比)	110%	54%	187%	103%	173%	—	—
日照時間(平年比)	89%	124%	94%	111%	79%	—	—

2 生育概況

(1) 概要

ア 早期・早植栽培（6月15日以前の田植）

早期栽培「コシヒカリ」は黄熟期～成熟期となっている。出穂期は概ね平年並で推移し、出穂後の登熟は順調に進んでいる。一方で、出穂後20日間の平均気温が高く経過したため、白未熟粒や胴割粒の発生による外観品質の低下が懸念される。作柄は概ね平年並と見込まれる。

早植栽培の生育ステージは、穂ばらみ期～乳熟期となっている。出穂期は地域や品種により差があるが、平年並からやや遅れている。6月下旬の低温・日照不足により生育は一時停滞したものの、その後の高温・多照により回復した地域が多い。生育は概ね順調だが、葉色の低下や下葉の枯れ、赤枯れ症状が多く見られる。

イ 普通期栽培（6月16日以降の田植）

普通期栽培の生育ステージは幼穂形成期～穂ばらみ期となっている。6月下旬の低温・日照不足の影響により初期生育はやや緩慢であったが、その後の高温・多照により生育は回復傾向にある。出穂期は平年並と見込まれるものの、地域や移植時期による差がみられる。一部ほ場では茎数確保の遅れや藻類、ガス湧き、赤枯れ症状、雑草の発生がみられる。

(2) 病虫害・障害等の発生状況

病虫害の発生状況では斑点米カメムシ類が平年並に発生しているが、イネカメムシの発生は昨年と比べて少ない。紋枯病の発生は地域によって平年並からやや少なく、内稃褐変病は平年並で推移している。雑草ではホタルイを中心に、コナギ、ノビエ、オモダカ、クサネム等の発生がみられ、藻類の発生も目立つ。

(3) 作況等の調査結果

作況等の調査結果（表 1 参照）

県平均の移植後 40 日の草丈は 62.0cm（平年比 103%）、茎数は 430 本/㎡（同 93%）であった。すでに出穂した地域の出穂期の平均は 8 月 6 日（同差＋1 日）であった。

(4) 農業技術センターの生育基本調査結果

ア 稲麦研究センター（6 月 25 日移植）

「あさひの夢」の移植後 40 日の草丈は 65.8cm（過去 4 か年平年比 89%）、茎数は 359 本/㎡（同 86%）であった。幼穂形成始期は 8 月 3 日（同差－1 日）であった。

イ 東部地域研究センター（6 月 3 日移植）

「あさひの夢」の移植後 40 日の草丈は 67.5 cm（過去 10 か年平年比 102%）、茎数は 507 本/㎡（同 85%）であった。幼穂形成始期は 7 月 27 日（同差±0 日）であった。

表 1 水稻作況等調査結果（地域別・作期別）（ ）内は平年比

調査項目 地区	移植期 月/日	移植後 20 日調査		移植後 40 日調査		出穂期	
		草丈 cm	茎数 本/㎡	草丈 cm	茎数 本/㎡	カ所数	月日
県	6/8(+2)	32.5(105)	177(98)	62.0(103)	430(93)	5/10	8/6
中 部	6/17(+2)	34.0(105)	184(91)	63.1(99)	381(86)	1/4	8/16
西 部	6/17(+7)	31.8(106)	120(78)	64.6(99)	460(103)	1/4	8/5
北 部	5/22(±0)	28.3(103)	218(122)	50.9(109)	481(94)	3/4	8/4
東 部	6/18(+2)	34.3(104)	156(103)	74.6(106)	376(94)	0/3	－
早期・早植	6/1(+4)	32.1(113)	176(88)	53.9(108)	457(93)	5/10	8/6
普 通 期	6/21(－1)	33.6(97)	159(106)	67.5(100)	404(94)	0/5	－

注 1) 県、地区、作期別の平均値はいずれも算術平均とした。

2) 移植期欄の()内の「－」は早い、「＋」は遅いを示す。

3) 8 月 15 日現在で調査時期となったほ場のみの値で、カ所数欄は〔調査カ所／設置カ所数〕を示す。

4) 早期・早植：6 月 15 日以前の田植。普通期：6 月 16 日以降の田植。

(5) 作柄のまとめ（表 2）

各地域の作柄は、すべて「並」であり、県全体では「並」が見込まれる。

表 2 地帯別作柄概況 () 内は農畜産課・地域農業課

地区別	作柄	概 況
中 部 (中部) (渋川) (伊勢崎)	並	・早植栽培：穂揃期～乳熟期。出穂期は平年並～5日程度遅れている。葉色の淡いほ場を中心に下葉の黄化、赤枯れ症状が目立つ。 ・普通期栽培：幼穂形成期～減数分裂期。6月下旬以降の低温・日照不足により初期生育はやや緩慢であったが、その後の高温により回復傾向にある。出穂期は地域差がみられ、平年並からやや遅れる見込みである。下葉の黄化や、赤枯れ症状、ガス湧きがみられる。
西 部 (西部) (藤岡) (富岡)	並	・早植栽培：穂ばらみ期～乳熟期。出穂期は地域によってばらつきがあり、平年並から前後3日程度の差がみられる。一部地域で渇水により田植えが遅れたが、移植後の生育は概ね順調である。 ・普通期栽培：分けつ後期～出穂期。出穂期は平年よりやや早まる見込み。6月下旬以降の低温・日照不足により初期生育はやや緩慢であったが、その後の高温により回復傾向にある。藻類の発生やホタルイ等の雑草の発生が目立つ。
北 部 (吾妻) (利根沼田)	並	・早植栽培：穂揃期～乳熟期。出穂期は吾妻で平年より1～5日程度早まり、利根沼田では1日程度早まったが、高冷地では平年よりやや遅れた。8月以降、斑点米カメムシ類の本田での発生がみられるほか、内穎褐変病も平年並に発生している。
東 部 (東部) (桐生) (館林)	並	・早期栽培：黄熟期～成熟期。「コシヒカリ」の出穂期は平年並となった。出穂後の高温により白未熟粒や胴割粒の発生が懸念される。 ・早植栽培：穂ばらみ期～乳熟期。6月下旬以降の曇天・降雨の影響により一時生育が停滞したものの、その後の高温により回復しており出穂期は平年並からやや遅れて推移した。地域によっては斑点米カメムシ類が平年並からやや多い発生である。 ・普通期栽培：減数分裂期～穂ばらみ期。出穂期は平年並が見込まれる。地域によっては斑点米カメムシ類が平年並からやや多い発生である。

3 技術対策

(1) 共通

ア 気象庁発表による長期予報では、向こう1か月の気温も高温となることが予想されている。高温による品質への影響が懸念されることから、適正な水管理や適期収穫等の基本技術を徹底し、被害の軽減を図る。

イ 生育の前進を見据え、計画的な作業とその準備に努め、荷受け施設においては水稻の生育に応じた稼働計画を設定する。

ウ 農薬散布については生育ステージに応じた適期散布と適正使用を心がけ、使用履歴の記帳を徹底する。

エ 斑点米カメムシ類を本田に寄せ付けないために、出穂期の前後各3週間程度はイネ科一年生雑草を継続して出穂させない畦畔管理を行う。そのため、出穂期の2週間前と出穂期頃（イネ科雑草発生前）に除草を行う。ただし、やむを得ず1回しか行えない場合は従来と同様に、出穂2週間前までに除草作業を行い、以降は作業を控える。本田で薬剤(液剤)による防除をする場合は、穂揃期とその1週間～10日後に行う。イネカメムシについては、出穂期とその1週間～10日後に行う。

オ いもち病、ばか苗病、もみ枯細菌病が発生したほ場の粃は翌年の種もみとして利用しない。

(2) 早期・早植栽培

- ア 乳熟期以降は間断かん水を基本とするが、高温が予想される場合は飽水管理や夜間かん水などにより、根の活力維持と稲体付近の温度低下を図る。
- イ 台風襲来時やフェーン現象などの高温・乾燥の強風時は、風が止むまで深水管理とする。
- ウ 出穂後 30 日以降を目安に落水し、その後は必要に応じて走水を与える。
- エ 高温日が連続すると登熟期間が短縮しやすいことに留意する。また、白未熟粒や胴割粒の発生が懸念されることから、成熟状況を確認して適期収穫を徹底する。
- オ 急速乾燥や過乾燥は胴割粒の発生を助長するため、乾燥作業には十分留意し、毎時乾減率 0.8%以下を目安として乾燥を行う。

(3) 普通期栽培

- ア 穂ばらみ期～出穂期は湛水、乳熟期以降は間断かん水を基本とするが、出穂後に高温となる場合は、飽水管理や夜間かん水などにより、根の活力維持と稲体付近の温度低下を図る。
- イ 葉色が低下しているほ場では穂肥により白未熟粒、胴割米等の高温障害の軽減を図る。
- ウ 台風襲来時やフェーン現象時の高温・乾燥の強風時は、風が止むまで深水管理とする。
- エ 病虫害の発生状況、発生予察情報を踏まえ、効果的防除を心がける。

《参考資料》

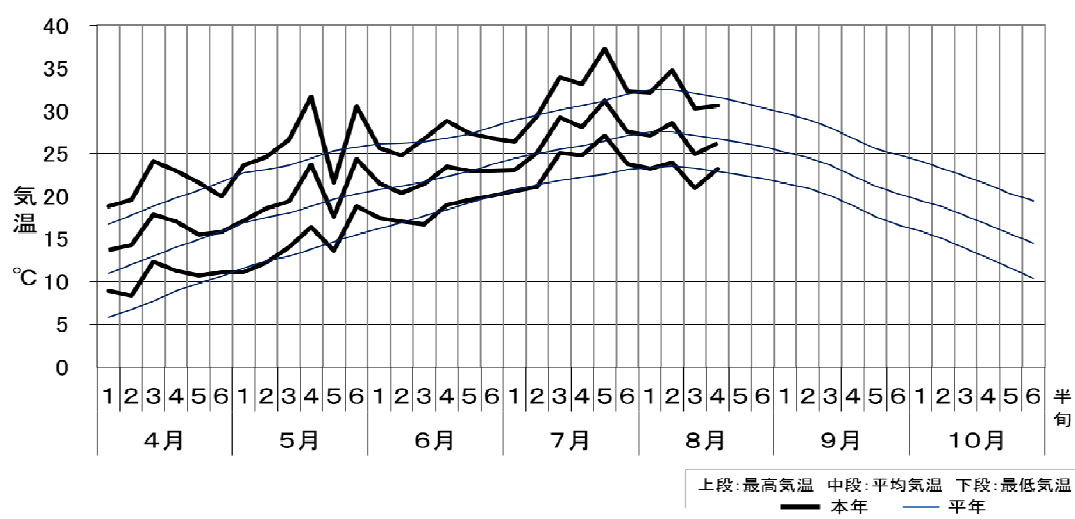


図1 気温

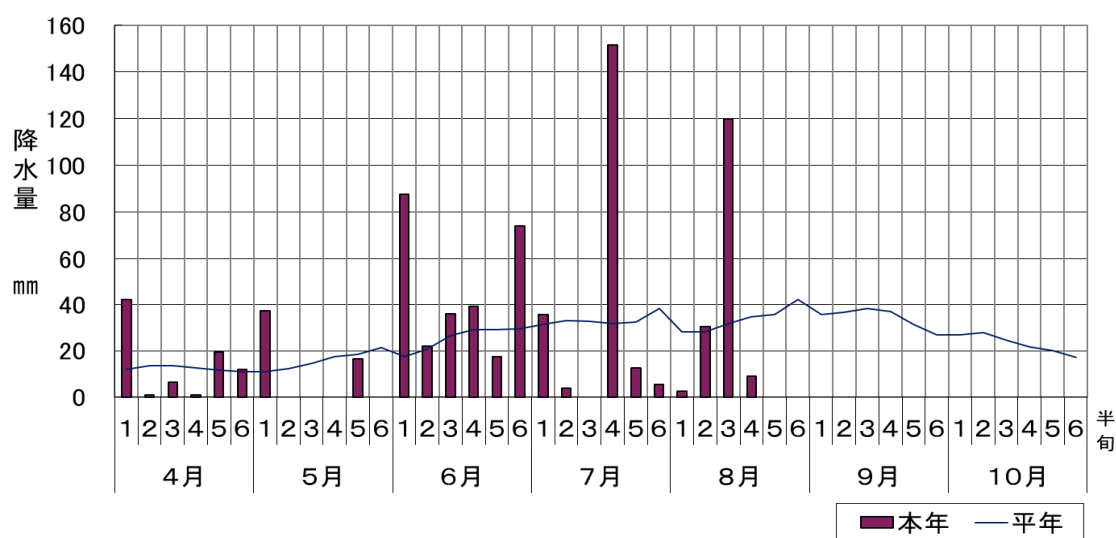


図2 降水量

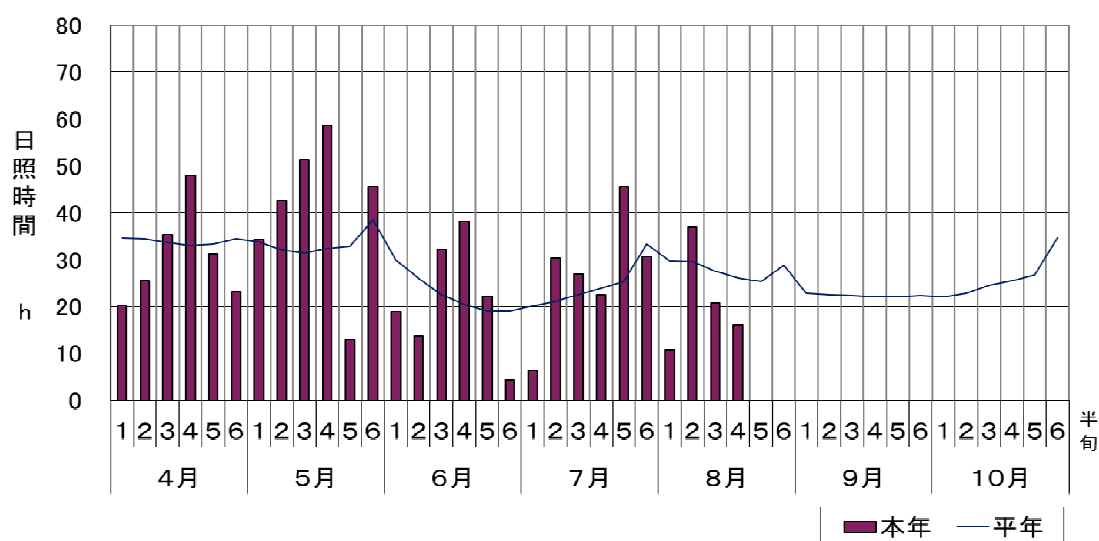


図3 日照時間

